

団体名	一般社団法人 ちくだい KIP	所在地	帯広市
団体概要	<p>体操教室を中心とした「総合型地域コミュニティ」と自らを位置づけ、「未来の地域をつくるあらゆる子どもたちを、強くたくましく美しく育てること」を目的に活動している。</p> <p>帯広畜産大学のバックアップを受け、同大学の体育館を中心に帯広市内 2カ所、鹿追町で 1カ所、計 3カ所で幼児から高齢者までの体操教室を行っている。事業開始は 2015 年で 2019 年に法人化。スタッフは現在 6 人、会員数は約 500 人を数える。スタッフは基本体操競技経験者である。</p>		

多様な「ひとのつながり」でレジリエントな子どもを育成する 次世代型ヘルスケア体操コミュニティの構築

背景	<p>帯広畜産大学で体育教員をしている同法人の理事と、その教え子で体操部を創設した代表理事が、スポーツを介したコミュニティを作るという構想のもと、子ども向けの体操教室を始めた。</p> <p>十勝地方唯一の国立大学である帯広畜産大学は、地域での信頼も厚く、予想外の反響があり、事業開始以降広告することなく人が集まっている。</p> <p>大人の健康に関する、食品企業との共同研究をきっかけに、当初予定になかった大人向けの教室も開催するようになった。</p>
活動内容	<p>帯広畜産大学、よつ葉アリーナ十勝、鹿追町総合スポーツセンターで体操教室を開催している。未就園児と保護者、園児、小学生、中学生以上のクラスがあり、各クラス 20 人ほどが在籍。年齢に合ったプログラムで指導している。</p> <p>子ども向けの教室では、子どもたちの基礎体力づくりに加え、成功体験やたくさんの方に大切にされた経験を積ませることで、逆境に負けない強い心を育てるといふ、二次的価値を生み出すよう指導に当たっている。</p> <p>大人の教室は年齢や体力などによりクラス分けし、メニューを変えている。適切な運動習慣、食べ物などの話もはさみ、家での健康習慣への意識を高めている。</p> <p>発達障害児、障害児者、高齢者などへの指導も行い、体操教室を通じてさまざまな年齢や特性を持つ人が交流することを目指している。</p> <p>コロナの影響で大学への出入りができなくなった際も、休眠預金事業により、他の会場での教室があったことで事業が継続できたほか、コロナ期間の事業継続にも役立てることができた。</p>

活動を実施する中での気づき・発見（成果・効果）

同じ空間で子どもと大人の教室を実施したところ、高齢の人が小さな子どもをかわいがり、子どもがなつくなどの交流が生まれた。親族以外の多世代のつながりが、大人の側にも子どもの側にも心理的に効果があることが分かった。単なる体操教室に終わらない、総合型地域コミュニティとしての存在価値を見いだしている。

大人のクラスでは会員同士とても仲良く、教室外でも交流している。ほかの体操教室ではあまり見られないことである。また、引っ込み思案で1年間教室に入ることもできなかったが、その後高学年になるまで続けている子どももいて、このように集団の中に自ら入り、活動を続けたことは初めてだと保護者も喜んでいる。体操教室を通じ、技術の進歩だけでなく、交流や成長が見られている。

課題、今後取り組もうとしていること（展望）

課題は人材の確保である。指導者は体操を教えるだけでなく、ちくだい KIP というコミュニティの存在意義・全体像をチームとして理解していなくてはならない。

当事業のゴールは地域の人たちが自分たち自身で健康に暮らせる地域をつくっていくこと。運動習慣・体力向上プログラムをつくり、それが体力・健康面や意識にどう影響したかを報告書にまとめ、自治体と一緒に健康な地域づくりに取り組んでいきたい。

将来的には、大人も子どもも高齢者も障害者も健常者も、「ごちゃまぜ」に暮らし、互いに影響し合い助け合うようなコミュニティをつくりたい。自分たちが得意な体操教室をそうした暮らしとどう結びつけ、また経営的に回る仕組みをつくるかがキーとなる。



大人の教室。参加者の年齢などに合わせてメニューを決める



ジュニアの教室。どの子どもにも笑顔が見られる

活動内容に関する問い合わせ先

一般社団法人 ちくだい KIP 理事 村田浩一郎

電話：(代表)080-9355-7295 メール：muratakoichiro@chikudaikip.com